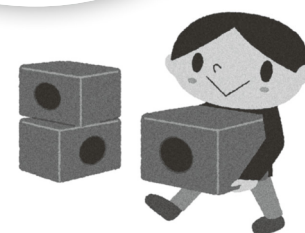


多くの野鳥が訪れる貴重な都

会のおアシス、谷津干潟。そこから、歩いて10分ほどの地にあるのが、袖ヶ浦団地だ。自然に恵まれた環境である一方、都心へのアクセスも良好。JR総武線「津田沼駅」、京成本線「京成津田沼駅」、JR京葉線「新習志野駅」の三駅の利用が可能で、都市の利便性と豊かな自然を同時に享受できる団地でもある。

約2900戸を擁する広大な団地内で、住民の憩いの場となっているのが袖ヶ浦団地ショッピングセンターである。2023年4月、その一角に「団地いどばたラボ」が誕生した。「この施設は、多世代が気軽に集まり、つながるコミュニティスペースとしてオープンしました。発足以来、地域の方々がメンバーとなり、ワークショップや講座などの活動を行っていたれています」と、団地を管理するUR都市機構の白井博子



阿部民子 text by Tamiko Abe  
Illustration by Shigeyuki Sakata

が説明する。活動の一環として、定期的に開催しているのが「団地いどばたマーケット」である。2023年12月9日には、キッチンカーやクラフト作家などが出店する3回目のイベントを開催。師走と思えない暖かな好天に恵まれ、多くの人でにぎわった。

マーケットのなかでも、子どもに人気だったのがポーネルンドのあそび道具を並べた「あそびLABO」だ。ふかふかの人工芝の上に、安全で軽い大型ブロックを用意。自由につなげたり、積み上げたりして、いろんなカタチができるとあって、子どもたちは大喜び。安全な遊び方をサポートするプレイリーダーとともに、年齢が異なる子どもたちが一

緒になって遊んでいる。4年生と3歳の女の子を連れてきていたお母さんは「こういうイベントがあると、学校の友達と偶然会ったり、知らない子どもも遊べて楽しいですね。袖ヶ浦団地に住んで10年になりますが、広い公園があるし、子どもが多いので友達もできやすくて住みやすいです」と話してくれた。

### ◎団地空間を活かして健康増進

広場の中央では、多くの人が集まって「健康増進エクササイズプログラム」を行っていた。プロのトレーナーを中心に、参加者がサークルになって「姿勢改善」「肩こり改善」「腰痛改善」、各50分の講座を受講。「青空の下で体を動かして気持ちいい。簡単な体操なので、家でもやってみよう」と、参加していた60代の女性が話す。

このプログラムは、URとポーネルンドが共同で主催したもの。URとポーネルンドは2023年3月に共同研究協定を締結し、健康増進に資する屋外環境の創出による団地の価値向上を進めている。ポーネルン



右／大型ブロックを自由に組み合わせたり、遊具に乗ったりして子どもたちが楽しんでいた。  
左／「団地いどばたマーケット」は袖ヶ浦団地の広場で開かれた。

ドは、あそび道具の提供からあそび環境の創造、メンテナンスまで、「あそび」について総合的に取り組んでいる企業。近年では、体を動かすことの楽しさが実感できる環境づくりを通して、子どもをはじめとするすべての世代の健康づくりにも積極的に取り組んでいる。

共同研究を始めた経緯と目的について、担当するURの清水和宏は「現在、URでは多様な世代が一緒に生き生きと暮らし続けられる『ミクストコミュニティ』の実現や子育て層への訴求、ウェルフェアの推進、

団地の活性化に取り組んでいます。ポーネルンドさんとは、UR団地内にある豊かな屋外空間を利用して、幅広い世代の心身の健康増進やコミュニティション創出などを目指し、共同研究を始めることになりました。今回のイベント参加も、そうした取り組みの一つです」と説明する。

### ◎多世代が健康に暮らせるまち

袖ヶ浦団地では、協定締結を機に商店街の広場にエアロバイクなど、5種類のアウトドアフィットネス器具を設置。器具の横にはインフォメーションサインがあるほか、効果的なトレーニング方法などの動画が見られるアプリのQRコードも掲示。13歳以上なら、誰でもいつでも自由にトレーニングができる。イベント当日も、ジョギングウェアの男性が器具を使って筋力トレーニングを行う様子などが見受けられた。

株式会社ポーネルンドの美和竜秀取締役は「弊社は、『あそび』という概念を使って、いろんな人たちがハイドル低く集まる仕掛けづくりをしております、それがURさんの目指すミ

クストコミュニティやウェルビーイングにつながればと思っています。URさんは、健康器具を設置する場合も、安全面の対応など厳しい基準をお持ちで、我々にとっても非常に勉強になります。今後は、イベントなどの結果を細かくチューニングしながら、次の担い手をどう育てていくかなど、共同でさまざまなことを考えていきたい」と語る。

URの清水も「こうしたイベントは、器具の使い方などを団地や地域の方に知ってもらいたい機会になります。これらの実績から、使いやすさや安全性などの検証を重ねていきたい。そして、いざれは他の団地にも展開していければいいですね」と言葉を添える。

屋外空間の創出により、住む人の健康をつくり、新たな人の輪が生まれる。多様な世代が健康で楽しく暮らせる新しいミクストコミュニティづくりを期待が高まる。